

加熱式タバコの宣伝がやたら眼につく

コンビニに置かれた宣伝用パンフレット

政府が関与する タバコの取り決め事項

コンビニに入れば、加熱式タバコの宣伝プレートが目立つところに置いてある。駅の構内にある売店の壁面を利用した、加熱式タバコの宣伝が眼に入る。派手な宣伝を見ながら、公衆の前ではタバコの宣伝ができなくなつたのでは？ と自問した。

家に帰ってパソコンを開き、タバコの宣伝についてチェックしてみると、いろいろな取り決めがなされていた。順を追って説明すると、次のようになる。

1972年（昭和47年）



特定のコンビニで見られる加熱式タバコの宣伝用プレートが入口近くに置かれている。



大蔵省（現・財務省）の指導で、たばこパッケージ横面に、『健康のため吸いすぎに注意しましょう』の表示が義務化される。

1984年（昭和59年）
たばこ事業法第四十条第二項の規定に基づいて、1985年以降に『たばこ広告に関する指針』が大蔵省より出されることになる。

1985年4月（昭和60年）
社団法人日本たばこ協会が設立され、大蔵省の指針に基づいて、広告・販売促進活動に関する自主規程、包装表示に関する規程を決定する。

午後6時から9時までのテレビコマーシャル、女性向け雑誌、読者の50%が未成年の雑誌、未成年に人気のある芸能人の起用など**自主規制**する。なお、テレビ、ラジオ、雑誌に関しては8月以降とする。

1987年8月（昭和62年）
女性の喫煙を描いた**広告の自主規制**。

1989年1月（平成1年）
午前5時から午後9時までの間のテレビコマーシャルの**自主規制**。

コはよいことにする。

最近、目立つ加熱式タバコは、従来の紙巻きタバコと違い、一般人から厳しい眼で見られない。それに、紙巻きタバコから加熱式タバコに切り替えた人が200万人いるとJTは強調する。2000万人強いる喫煙者のうち、一割程度に過ぎなくても、そうした動きが加熱式タバコの宣伝に拍車をかけるのだろうか。

矛盾に気づいていない？ 加熱式タバコのパンフレット

コンビニで無料配布されている加熱式タバコ説明書『IQOS これがすべてを変える』には、「9つの有害成分の量の低減率（平均）紙巻タバコと比べるとIQOSは約90%低減」「紙巻タバコの煙より素早く消え、屋内環境に悪影響を及ぼしません」と書かれている。

そして、小さな文字で「IQOSにリスクがないというわけではありません。たばこ関連の健康リスクを軽減させる一番の方法は、紙巻たば

1990年（平成2年）

大蔵省の指導によって、警告表示が『あなたの健康を損なう恐れがありますので吸いすぎに注意しましょう』に変更される。また、全日本スキー連盟は、大会にたばこ銘柄を冠することを禁止する。

1995年（平成7年）

日本たばこ協会は**広告・販売促進活動に関する自主規程等の改訂**を行ない、週末、祝日、年末年始のテレビ・ラジオコマーシャル、小・中・高校から100メートル以内のたばこの屋外広告が**自主規制**される。

1996年（平成8年）

屋外における自動販売機の深夜時間帯の稼働停止が**逐次行なわれる**。

1998年4月（平成10年）

日本たばこ産業の**自主規制**によってテレビ、ラジオ、インターネット等でのたばこ銘柄のコマーシャルが**自主規制**される。

2002年（平成14年）

読者の25%が未成年の雑誌へのたばこ広告掲載が**自主規制**される。

2004年（平成16年）

財務省が指針を改定し、メディア（テレビ、ラジオでのたばこコマーシャル全面禁止。雑誌、新聞への広告の規制）を通じて、たばこ銘柄広告、イベント会場等でのたばこ無料配布や屋外広告などの制限が強化される。

2005年（平成17年）

たばこの規制に関する世界保健機関枠組条約が発効。たばこパッケージの前面、背面に健康を警告（『喫煙は、あなたにとって肺気腫を悪化させる危険性を高めます』等）の表示をする。

「自主規制」が目立つ タバコに関する決めごと

そう多くない取り決めの中に、「自主規制」という文字が6回出てくる。自主規制とは、広告する側のJT（日本たばこ産業）が自社で規制の範囲や条件を決めるということである。コンビニで加熱式タバコの宣伝をする時は、自社で自主規制の範囲を決める。駅構内の広告では加熱式タバ

こもIQOSも両方やめること」と説明を加えている。

9つの有害成分とは、一体なんだろうか。タバコの有害成分は、紙巻タバコ一本に200種類以上含まれている。90%の低減率は、200種類以上あるうち9種類のことである。その他、191種類以上の有害成分は、どうなっているのだろうか。

加熱式タバコを宣伝するパンフレットには、「喫煙は、あなたにとって肺がんの原因の一つとなり、心筋梗塞・脳卒中の危険性や肺気腫を悪化させる危険性を高めます。未成年者の喫煙は、健康に対する悪影響やタバコへの依存をより強めます。周りの人から勧められても決して吸ってはいけません。妊娠中の喫煙は、胎児の発育障害や早産の原因の一つとなります」ということも明記している。

見方によっては、支離滅裂なことを説明しているように思える、加熱式タバコ宣伝用パンフレットである。（本誌・吉本和之）



加熱式タバコの商品説明をした宣伝用パンフレットの一部分